

# 地球観測に関する政府間会合(GEO)本会合等の開催結果

第56回地球観測に関する政府間会合(GEO) 執行委員会  
第17回地球観測に関する政府間会合(GEO)本会合  
第14回アジア・オセアニアGEO (AOGEO) シンポジウム

2021年12月24日

文部科学省 研究開発局 環境エネルギー課



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 目次

1. GEO等の概要
2. 第56回GEO執行委員会開催結果
3. 第17回GEO本会合開催結果
4. 第14回AOGEOシンポジウム開催結果



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 1. GEO等の概要

## GEOとは？

◆ 地球観測の国際連携による課題解決を目指す国際的な政府間パートナーシップ。SDGs、気候変動、防災及び都市の強靱化の4つを優先連携分野として位置づけ、全球地球観測システム（GEOSS）やワークプログラムなどを通してグローバル課題の解決に貢献している。

## GEOのビジョン、ミッション

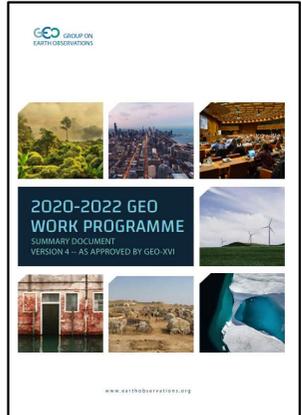
### 『GEO戦略計画2016-2025: GEOSSの実施※』

**ビジョン**：人類の利益のための意思決定や行動が、調整された、包括的かつ持続的な地球観測及び情報に基づいて行われる将来を実現する。  
**ミッション**：ビジョンを実現するため、GEOSSを構築し、地球観測データ及び情報の需要と供給を結びつける。

※現在はGEOの第二期にあたる。（第一期は2005-2015年の「GEOSS10年実施計画」）

## GEOSSとは？

- 各国の複数の観測システム（衛星・現場観測）からなる地球観測のシステム。気候変動等のグローバル課題への貢献を目指し、各国の地球観測データ等を官民を含む広範囲のユーザに対して提供するポータルサイト『GEOSS Portal』を運用。

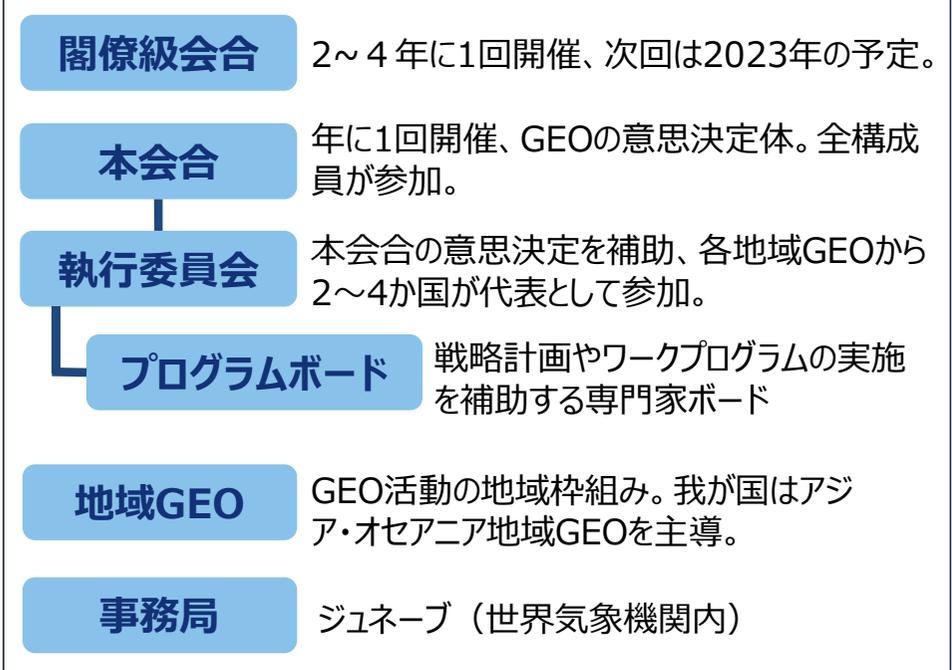


## ワークプログラムとは？

- GEOの計画・活動の主要な手段。地球観測を用いた課題解決等のための具体的な活動。
- 3年毎に見直しが行われる。現在は2020-2022年のワークプログラムを履行中。

## ガバナンス構造

※参加国からの拠出金により運営



## 参加国

計113か国



# 1. GEO等の概要：GEOにおける我が国の貢献

- ◆ 我が国はDIAS等のGEOSSへの接続、各ワークプログラムの活動などを通して活動に貢献。
- ◆ アジア・オセアニア地域の代表として執行委員会のメンバーとなっている他、プログラムボードにも日本人がアサインされ、GEOの運営全般に深く関与している。また、地域GEO（Asia-Oceania GEO: AOGEO）の共同議長を務める他、AOGEOシンポジウムを主催し、地域の活動を主導している。

## GEOSSへの貢献



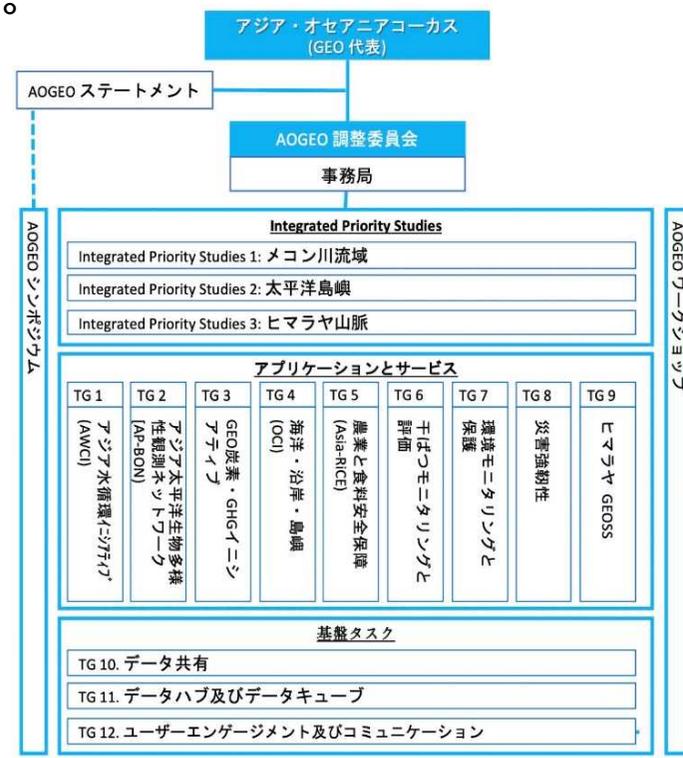
## ワークプログラムへの貢献

以下のワークプログラム（主要なもの）を通してGEOに貢献

DIAS、Global Forest Observation Initiative、GEO Global Agricultural Monitoring、Earth Observation for SDGs

## アジア・オセアニアGEO (AOGEO)

- GEO戦略計画を達成するための地球観測の地域連携プログラム
- 地域の課題に沿ったタスクグループの活動を中心として、課題解決のための取組みを行っている。
- 我が国はタスクグループ (TG)1～5の活動をリードする他、AOGEOシンポジウム (1回/年) を主催。



## 2. 第56回GEO執行委員会開催結果：概要

- 期間 : 2021年11月22日(月)
- 場所 : オンライン
- 出席者 : 共同議長国(中国、米国、南ア、EC)、日本、豪州、韓国、ガーナ、独逸、ペルーなどの執行委員国をはじめとするメンバー国やオブザーバ機関、GEO事務局。
- 主な議題 :
- GEO事務局の活動報告
  - 中間評価報告書に対する対応
  - 次期GEO戦略ミッション策定に向けてのロードマップ
  - 会計報告
  - オープン・ナレッジ声明
  - GEO 平等性、多様性及び包括性に係る声明

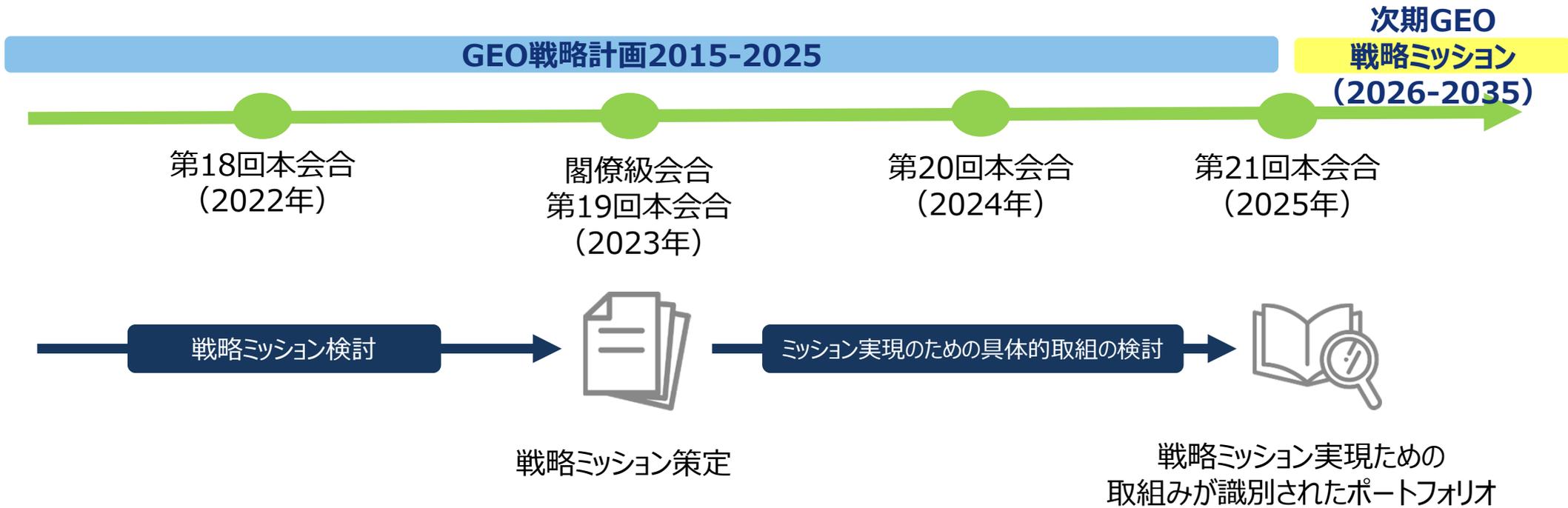
- ◆ 中間評価報告書（2021年第55回執行委員会で報告）に対する執行委員会の対応を審議。この中でGEOSSの再評価を行うための専門家アドバイザリーグループ（Expert Advisory Group : EAG）の設置を決定。
- ◆ 2026年以降の次期GEO戦略ミッション（2026年-2035年）の策定に向けてのロードマップを議論。①2023年に予定されているGEO閣僚級サミットで戦略ミッションを策定、②2026年の開始までに戦略ミッション実現のための取組みに関するポートフォリオの作成、という2段階のアプローチについて合意。

# 2. 第56回GEO執行委員会開催結果：補足

## 次期GEO戦略ミッションに向けてのロードマップ<sup>o</sup>

- 戦略ミッションの策定にあたり、執行委員会の主導で、GEOコミュニティ等とも連携して進めることを確認。
- 我が国からは、過去の経緯等も踏まえ、専門の作業部会の設立を提案。各国もこれに同意し、次回執行委員会（2022年3月）でより詳細な戦略ミッション策定のプロセス等を議論することで合意。

主要なタイムライン（詳細は今後議論）



### 3. 第17回GEO本会合開催結果：概要



期間 : 2021年11月23日(火)~26日(金)

場所 : オンライン

出席者 : GEO共同議長国(中国、米国、南ア、EC)や執行委員国をはじめとするGEOメンバー国や国際機関等が参加。93か国から1,500人程度が参加。

セッション内容 :

11/23

オープニング/GWP\*とグローバルポリシーへの貢献

11/24

GEOコミュニティとの連携

11/25

デジタルデータ、ツール及び知見間の架橋

11/26

今後の展望

\* GEOワークプログラム

# 3. 第17回GEO本会合開催結果：概要

- ◆ GEOの各ワーキンググループの活動報告等に加え、GEOにおける各活動の連携、地域GEOの活動促進、データ共有等に係る報告及び意見交換を実施。

## GEOワークプログラムとグローバルポリシーへの貢献

- GEOのワークプログラムの中で優先連携三分野及び生物多様性並びにラムサール条約等の国際的な政策課題の解決に貢献している活動（GEOGLOWS\*1、GS4M\*2、GSNL\*3、GEO Wetlands\*4）が紹介された。

## GEOコミュニティとの連携

- 気候変動、DRR、能力開発におけるワーキンググループの活動報告に加え、各地域GEOの活動について報告がなされた。ここではAOGEOタスクグループ1（AWCI\*5）の取組みについての報告がなされ、AWCIがフィリピン国内の複数の関係省庁と連携している点について称賛の声が上がった。

## デジタルデータ、ツール及び知見間の架橋

- 地球観測データへのオープンなアクセスを促進している活動（GWIS\*6、Digital Earth Africa、GEO Mountains、India Data Cube）がデータ共有に係るグッドプラクティス（ユースケース）として紹介。

\*1 GEO Global Water Sustainability: 国際的な水問題に関する取組み。

\*2 Global Observatuib System for Mercury: 「水銀に関する水俣条約」に係る国際的な評価・監視の取組み

\*3 Geohazard Supersites and Natural Laboratory initiative : 地球科学研究と地理的ハザード評価により災害リスク軽減を目指した取組み。

\*4 「ラムサール条約」に係る国際的な湿地観測の取組み。

\*5 Asia Water Cycle Initiative: アジア水循環イニシアチブ

\*6 Global Wildfire Information System : 国際的な火災監視・評価の取組み。

# 3. 第17回GEO本会合開催結果：主な決定事項

## 承認：GEO第4の優先連携分野「強靱（レジリエント）な都市と人間居住」

- GEOコミュニティが都市の課題にあわせた活動を促進し、関連するステークホルダーとの連携を通して、都市、その他の人間居住及び持続的な都市化における地球観測の利用を促進する。
- GEO事務局に新たに「強靱な都市と人間居住ワーキンググループ」を設置。

## 採択：「オープンナレッジ声明」

- GEOの活動におけるオープンサイエンス等の重要性を踏まえ、意思決定のためのナレッジの公開性等を確認。

## 採択：「GEO 平等性、多様性及び包括性に係る声明」

- 出身国、人種、ジェンダー、年齢、性的指向、社会経済的背景や能力に関わらず、誰もがGEOに参加しその価値を享受する機会が提供され、多様で包括的な地球観測コミュニティの発展を支持することに確認。

## 承認：「GEOワークプログラム（2023-2025年）」の募集要項等

- 次期GEOワークプログラムは年明けに募集が開始され2～3月に申請書提出の締切予定。  
（※詳細の募集スケジュールはGEO事務局から別途連絡予定）

# 4. 第14回AOGEOシンポジウム開催結果：概要



期間 : 2021年11月10日(水)~12日(金)  
場所 : オンライン  
テーマ : Envisioning AOGEO in 2022 and beyond  
参加者 : アジア・オセアニア (AO) 地域内外から3日間で204名が参加。また、地域内9か国がカントリーレポートを実施。



## シンポジウムの目的等

- ◆ 生物多様性、太平洋島嶼国における衛星データ利用及び気候変動などの特に地域での関心が高いトピックに関して、課題や先行事例の共有を図る。
- ◆ 各タスクグループの今後の活動計画について報告・議論をし、更なる取組の拡大や強化、タスクグループ間の連携の具体化に向けた議論の加速を図る。

# 4. 第14回AOGEOシンポジウム開催結果：各セッションの概要

## Special Session1



Biodiversity for Addressing  
Climate Change & Disaster  
Risk Reduction

### 気候変動・災害リスク軽減と生物多様性の活用

#### 報告概要

- 生物多様性と気候変動の相互関係に係る基調講演を踏まえ、太平洋島嶼国及び東南アジアでの取組事例等を報告。

#### セッションから得られた視点

- 生物多様性は災害リスク軽減にも重要な役割を果たしている。
- 生物多様性情報活用のために、網羅的な観測ネットワークやデータ共有システムを安定的に運用することが重要。

## Special Session2



Satellite data for the  
Pacific Islands: Supplier  
and User perspectives

### 太平洋島嶼国のための衛星データ：供給側・利用側それぞれの視点から

#### 報告概要

- 衛星データの供給側・利用側（地域コミュニティ・地域制度・地域政府関係者）それぞれの登壇者間でパネルディスカッションを実施。

#### セッションから得られた視点

- 太平洋島嶼国の利用ニーズを踏まえた情報交換が必要。
- AOGEOは両者のコミュニケーションを促進する地域的なプラットフォームとして有用。

## Special Session3



Earth Observation for  
Climate Change

### 気候変動と地球観測

#### 報告概要

- GEO気候変動ワークショップの開催結果及びIPCC第6次報告書等に係る基調講演を踏まえ、気候変動緩和、適応及びファイナンスの観点からアジア・オセアニア地域での取組事例等を報告。

#### セッションから得られた視点

- 地域における地球観測データの活用を進めるために具体的なユースケースが重要。
- ユースケースの検討・実行により地域内の連携と協力を促進することを確認。

# 4. 第14回AOGEOシンポジウム開催結果：各セッションの概要

## タスクグループセッション

- 各タスクグループの活動報告並びに次期活動計画についての報告がなされた。また、AOGEOの分野横断的に取り組むケーススタディであるIntegrated Priority Studies (IPS)活動についても現状の報告が行われた。
- タスクグループ間のパネルディスカッションを通して、更なる取組みの拡大や強化、タスクグループ間連携の具体化に向けて議論を行った。

## 次期ワークプログラムに向けて

下記内容について、ステートメントで合意

- 具体的なユースケースの重要性を認識する。
- 産業セクターを含む新たなステークホルダーとの関与を高める。
- GEOの優先連携分野に係る各国、域内のステークホルダーとのパートナーシップを強化する。

**2021 AOGEO Statement**  
Online  
November 10th - 12th, 2021

The 14th Asia Oceania Group on Earth Observations (AOGEO) Symposium was held online from 10 to 12 November 2021 with the theme of "Envisioning AOGEO in 2022 and beyond". The symposium was organized by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology-Japan (MEXT) with support from the GEO Secretariat and brought together 204 participants in total and 9 countries presented their reports.

Each thematic Task Group (TG) had held sectorial meetings and reported their achievements and next implementation plans at the plenary. Three special sessions were held highlighting essential challenges and opportunities at regional and global scale.

Through the interactive discussion at the plenary, the participants:

1. Recall that the G20 Summit in Naples in 2021 emphasized ensuring that our national actions remain informed by the best available science.
2. Recognize that Earth observations (EO) have a great potential to be the source of knowledge and tools to support decision making and tackle the confronting global issues.
3. Recognize the important contribution and key role regional GEO can play in helping coordinate and facilitate GEO activities, and contribute to realizing the vision of GEO.
4. Acknowledge efforts by the GEO community for regional capacity development:
  - i. The 4th AOGEO Workshop for capacity development on use of EO data and knowledge in July 2021 in Beijing, China
  - ii. TGs fostering "facilitators" who will bridge the science community and society to support decision-making, policy-making, public investment, and local practices utilizing EO data and scientific knowledge.
5. Welcome that AOGEO keeps reforming and adapting itself to be a fundamental platform for further regional concerted actions among stakeholders with its essential loose and flexible nature.

**Achievements and way forward**

6. Welcome the achievements that TGs have accomplished, and their concrete and promising implementation plans for 2022 and beyond;
  - i. AWCI continues to integrate the "Online Synthesis System for Sustainability and Resilience (OSS-SR)" and foster "Facilitators," and promotes "Water Cycle Consilience" in cooperation with the fields of urban, ecosystem, food, energy, and Quality of Life (QoL).

1